慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	行動の数理モデルの構築 - 経営行動科学への応用を目標として -
Sub Title	
Author	白井, 義人(Shirai, Yoshito) 渡辺, 直登
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2058号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2058

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	渡辺 直登 研究会	学籍番号	80430550	氏名	白井 義人

（論文題名）
行動の数理モデルの構築
－経営行動科学への応用を目標として－

（内容の要旨）

学習理論に分類される行動理論は，個体の行動を客観的に説明するための行動の科学である．行動理論は，教育プログラムの開発に利用されている．これに対して，組織におけるモチベーションを考えるための応用は積極的ではないように思われる．

この理由としては，行動理論に対する様々な誤解に基づく批判の影響が大きいようである．

しかしながら，科学的客観性を特徴とする行動理論を利用した新たな視点で，組織における個人の行動を分析することは価値があると考えた．

そこで，本研究では，組織における個人の挙動を分析する上で行動理論からの知見を得ることを目標として，基礎的研究として，すでに行動理論で明らかになっている事柄に基づき，これを数理モデルで表現し，検討することにした．

本論文は，すでに行動理論で明らかになっているものに基づき，これを数理モデルで表現し，これを検討した結果についてまとめたものである．本論文は，８章より構成されている．

第１章では，本研究の背景について述べている．

第２章では，行動理論の概観について述べている．

第３章では，行動の数理モデルに関する従来の研究について述べたもので，1961 年から現在までに提案されているモデルについて概略を説明している．

第４章では，本研究の目的について述べている．

第５章では，数理モデルを構築する上で必要となる材料を，行動理論分野の論文を基にまとめている．また，本数理モデルに導入する要素の選定も行っている．

第６章では，第５章の内容に基づき，数理モデルを提案している．

第７章では，提案した数理モデルを用いたシミュレーションを行い，結果について述べている．

第８章では，本研究で得られた成果を総括し，本論文の結論を示した上で，モデルについての限界，今後の課題，組織行動マネジメントへの応用の可能性について述べている．